

音楽療法と大正琴 現場ルポ

「大正琴を弾いているときは何もかも忘れて夢中になれる、楽しいです!!」
この一言に大正琴の効用が語りつくされていきました。
音楽療法と大正琴との関連を探る現場ルポを連載してまいります。
読者の皆さんはこれまで、大正琴を演奏するということが健康保持、若返りにつながる...
ということをよく耳にされると同時に、実際に体験されてこれたものと思います。
そこで、「理論と実践」の両面から探ってみようと思います。



大正琴でリハビリ中の内田さん・漆間さん・後藤さん

デイケアセンターでは大正琴が

先ずは、インターネットで「音楽療法と大正琴」についての最新情報を検索してみましたら約30項目が出てきました。その中から、東京国際音楽療法専門学院の卒業論文「『大正琴の歌い弾き』により残存能力が引き出された音楽療法」が目にとまり、卒業論文を書かれた安部ゆかり先生の勤務先、大分市の医療法人優心会ハートクリニックデイケアセンターをお訪ねして、安部先生並び



に大正琴でリハビリに励む3人の方にお話を伺いました。
訪問した日は3月18日、その5日前には福岡で日本一早い桜開花宣言が福岡管区気象台から発表されました。
午前10時、デイケアセンターで大正琴による通所リハビリの方3人の練習演奏が始まりました。指導は安部先生です。演奏曲は「みかんの花咲く丘」「知床旅情」「波浮の港」の3曲、40分の時間はあっという間に経ってしまいました。譜面は見やすいよう



に大きな数字、文字で書かれていました。安部先生の手書きによるものだそうで、指の指定はされていません。安部先生によれば、指の不由中な方もおられますので、弾ける指で弾きましよう...ということにしているとのことでした。
練習演奏は、安部先生が左手(ボタン)、通所者が右手(ピック)で弦をはじく、自分の歌のテンポでピックをはじいていました。
練習演奏の終わった3人に早速聞いてみました。「あなたにとって大正琴とは何ですか?」
内田さん とにかく気持ちいい、仲間が増えるところ。..
漆間さん 晴耕雨琴の毎日、晴れば畑仕事、雨だと大正琴。弾いている時は何もかも忘れてしまっ、痛いところもなくなる。
後藤さん 歌が好き。45年前から大正琴を弾いている。

安部 ゆかり 先生



安部ゆかり先生(音楽療法士)に大正琴並びに卒業論文のことをお尋ねしました。

Q 音楽療法になぜ大正琴なのでしょう?

A ♪音色が高齢者好み。♪数字譜で親しみやすい。♪ミニ発表会を開きやすい。♪意欲を持って演奏できる。♪1曲を弾き終える、自然に持続力が身に付く。

卒業論文

『大正琴の歌い弾き』により残存能力が引き出された音楽療法
〜夫の介護負担も視野にいれて〜東京国際音楽療法専門学院平成19年卒業【抜粋掲載】

【I】はじめに

本事例は重度アルツハイマー型認知症Aさんの、残存能力を高めるための音楽療法(大正琴)の効果について研究したものである。

【II】目的

残存する能力を引き出し「社会的な能力を高め」「社会的な孤立を防ぐ」として導いたAさんの事例を通して、介護者を視野に入れた音楽療法の意義を考察する。

【III】方法

対象者は、Aさん、73歳、女性で8年前に認知症初期症状が現れ、3年間にアルツハイマー型認知症と診断される。70歳の夫と娘夫婦と孫二人の6人家族。3年前から週5日通所リハビリテーションデイケアを利用。デイケアの利用目的は「家族の介護負担の軽減、外出の機会を得て他者とふれあうこと」である。このAさんに大正琴を使用して8ヶ月間で全30回の個人セッションが行われた。

プログラムの内容

- (一)演奏能力を身につけるために
安部セラピストが左手で音の操作をする。Aさんがピックを右手に持ち、向こう向き(普通向き)をする。ピックを握ることから練習をし、弦を鳴らすことへ導いた。主に季節の歌を「歌い弾き」する。
- (二)何気なくセラピストが大正琴を歌い弾きを始める。
- (三)Aさんにピックを握ってもらい、④手を添えて弦を鳴らす。
- (四)手を添えずに向こう向き(普通向き)の練習。⑥歌い弾き
- (五)①から⑥を何度も繰り返す。
- (六)練習の過程、演奏会10月の最終時に開催した。夫に観てもらった。

【IV】経過

「大正琴の歌い弾き」を開始して、「ミニ演奏会」というお披露目ができるまで約8ヶ月の様子をまとめた。
セッション開始時はピックを持つことができず、すぐに落ちてしまった。Aさんに繰り返しアプローチすることで弦をはじくことを可能にし、セッション中期には状況に見合った言葉の表出が見られるようになった。ミニ発表会ではデイケア利用者の皆さんから賞賛され、満面の笑みが見られた。これまでに複雑な思いをセラピストに訴えてきたAさんの夫は、ミニ発表会のビデオを見て、とても感動した様子であった。

【V】考察

他者から動きかけがない限り自らの意思で立ち上がったこともなく、デイケア内で座ったままのAさんへセラピストがアプローチすることにより、大正琴の弦をはじく技術を獲得し「歌い弾き」ができるようになった。他者と大正琴のグルーブ演奏を経験できたことは、Aさんの「残存能力」を引き出し、「社会的能力」を高め「社会的な孤立を防ぐ」とへ導いた。経過の中で他の利用者やセラピストと喜びや楽しみを共有し、笑顔を表出できたことは、通い慣れた場所であり、守られた環境で安心感をもって音楽療法を継続することができたからだと考えられる。

「音楽療法」の定義は「音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること」(日本音楽療法学会)

音楽療法士とは

障害者や高齢者などに対して音楽を通じて治療を行う専門家です。日本音楽療法学会が資格認定を行っているが国家資格にはなっていない。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士は国家資格となっている。

全国のデイケアセンター(介護保険料申請)の数は平成21年2月現在、6,536ヵ所(厚生労働省調べ)